

令和7年度海岸漂着ごみ組成調査業務報告書

新松原海岸（岡垣町）

令和8年2月

福岡県保健環境研究所

1 調査の目的

福岡県の海岸漂着ごみの実態把握及び発生抑制対策に資する情報収集を行うため、海岸漂着ごみ組成調査を実施した。

2 調査方法

2.1 地点

調査地点である新松原海岸の位置を図 1-1 及び図 1-2 に、調査範囲を図 1-3 に、詳細を表 1 にそれぞれ示す。調査地点は響灘に面した砂浜であり、環境省レッドリストにおける絶滅危惧 I B 類(EN)に分類されているアカウミガメの産卵地として知られている。本海岸では令和 7 年 6 月 1 日にラブアース・クリーンアップ 2025 として清掃活動が行われている。今回調査を行った地点で清掃活動が行われたかについては不明である。

新松原海岸に近い気象台である宗像観測所及び八幡観測所(図 1-1)における令和 6 年、令和 7 年の平均風速及び最多風向を表 2-1、2-2 に示す。宗像観測所の平均風速は 2 年間で 1.9~3.0 m/s、八幡観測所は、1.7~2.9m/s である。また、各月の最多風向のみでは、年間を通した風向の傾向を十分に評価することができないため、より詳細な情報として 2 年分の 1 時間毎の風速及び風向データから風配図を作成した(添付 1)。

日本周辺の主要な海流を図 2 に示す。響灘では対馬暖流の影響で 1 年を通して西から東へ流れる潮流が主である。

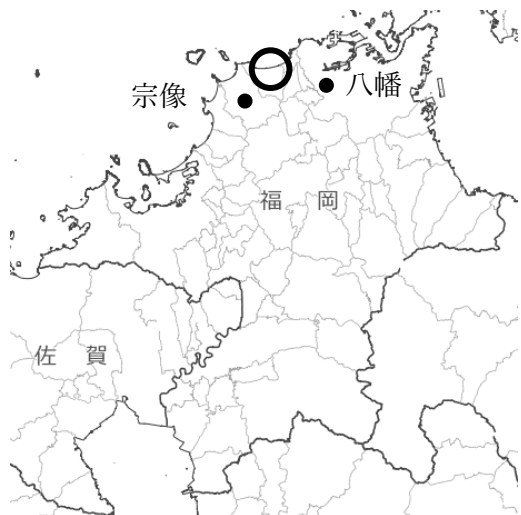


図 1-1 新松原海岸 (○) と観測所 (●) の位置
出典：国土地理院 白地図



図 1-2 新松原海岸の位置
出典：国土地理院 淡色地図



図 1-3 調査範囲

表 1 新松原海岸の詳細

所在地	岡垣町黒山
中心地点の緯度経度	33.88047° N 130.61667° E
1km 以内の一級及び二級河川河口	なし。1.5km 東に矢作川河口、1.4km 西に汐入川河口あり。
調査範囲奥行き (平均)	10m
直近の清掃活動	ラブアース・クリーンアップ 2025 (令和 7 年 6 月 1 日)

表 2-1 宗像観測所における気象データ（令和 6、7 年）

宗像	令和 6 年		令和 7 年	
	平均風速 m/s	最多風向 -	平均風速 m/s	最多風向 -
1	2.4	西北西	2.8	西
2	2.6	北東	3.0	西北西
3	2.7	西北西	3.0	北北東
4	2.1	東	2.5	西南西
5	2.5	北北東	2.5	北西
6	2.2	東南東	2.1	西北西
7	2.4	西南西	2.6	東南東
8	2.5	北北東	1.9	西北西
9	2.3	東南東	2.0	東南東
10	2.4	東南東	2.0	東北東
11	2.7	東	2.1	西
12	2.6	西北西	2.2	北西

表 2-2 八幡観測所における気象データ（令和 6、7 年）

八幡	令和 6 年		令和 7 年	
	平均風速 m/s	最多風向 -	平均風速 m/s	最多風向 -
1	2.5	南	2.6	南
2	2.0	北東	2.9	南南西
3	2.6	南南西	2.9	南南西
4	1.7	北東	2.7	南南西
5	2.2	南南西	2.3	南南西
6	2.2	南	2.3	南
7	2.9	南	2.4	東南東
8	2.4	北北西	2.3	南南西
9	2.0	南南西	2.2	南
10	1.9	北東	1.8	南
11	2.1	南南西	2.1	南
12	2.7	南	2.4	南

気象庁データから作成 <https://www.data.jma.go.jp/risk/obsdl/>



図2 日本周辺の海流

出典：海上保安庁海洋情報部

<https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN8/sv/teach/kaisyo/stream4.html>

2.2 期間

回収作業は令和 7 年 10 月 20 日、集計作業は令和 7 年 10 月 23 日に実施した。

2.3 回収及び集計作業

作業は地方公共団体向け漂着ごみ組成調査ガイドライン（令和 7 年 5 月第 4 版）に従い実施した。

3 調査結果

集計結果を表 3 及び図 3 に示す。また、詳細なデータシートを添付 2 に、言語表記等調査シートを添付 3 に、回収前後の写真等を添付 4 に、回収したものの写真を添付 5 にそれぞれ示す。なお、シートや袋の破片、硬質プラスチック破片、発泡スチロールの破片、ガラス、陶器の破片及び灌木は個数を計数していないため個数には計上していない。回収物全体の容量は 531 L、重量は 60.7 kg であった。容量及び重量ともに最も大きな割合を占めたのは自然物であった。

同地点における令和 3 年、令和 5 年及び令和 7 年の調査結果の比較を表 3 及び図 4 に示す。全体の個数は令和 3 年、令和 5 年及び令和 7 年の各年において、年次的に減少している。また、全体の容量及び重量は、令和 7 年は令和 5 年より減少しており、令和 3 年と同程度である。

回収物を人工物(漁具)、人工物(漁具以外)及び自然物に分けた集計結果を表 4 及び図 5 に示す。個数については人工物(漁具以外)、容量及び重量は自然物が最も大きな割合を占めていた。

ペットボトル等の製造国別集計結果を表 5 に示す。ペットボトルは、日本が 11 個、製造国不明 2 個であった。ペットボトルのキャップは、日本が 2 個、製造国不明 4 個であった。漁業用の浮子は、中国・台湾が 2 個、製造国不明 1 個であった。

表3 集計結果

大分類	個数 (個)			容量 (L)			重量 (kg)		
	R3 (2021)	R5 (2023)	R7 (2025)	R3 (2021)	R5 (2023)	R7 (2025)	R3 (2021)	R5 (2023)	R7 (2025)
1 プラスチック	624	284	84	85	74.9	14.7	25.9	7.83	1.51
2 発泡スチロール	8	1	0	2	541	1	0.1	10.9	0
3 ゴム	0	3	1	0	0.51	0.3	0.1	0.071	0.07
4 ガラス、陶器	4	3	1	1	1.05	0.1	0.4	0.458	0.2
5 金属	7	2	4	1	2.9	0.96	0.1	1.53	0.23
6 紙、ダンボール	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7 天然繊維、革	0	1	0	0	0.01	0	0	0.0005	0
8 木 (木材等)	27	115	8	54	421	13	19.6	131	8
9 電化製品、電子機器	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10 自然物	0	22	4	268	548	501	23.8	117	51
11 その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	670	431	102	411	1590	531	70.0	268	60.7

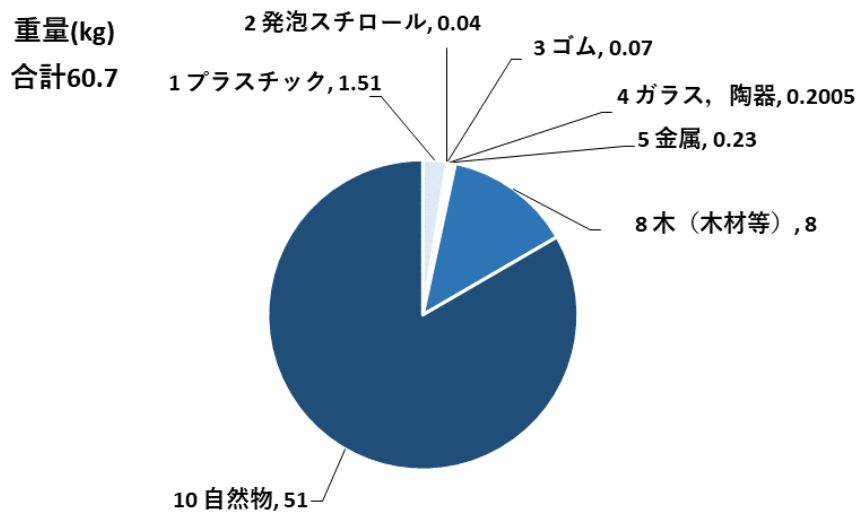
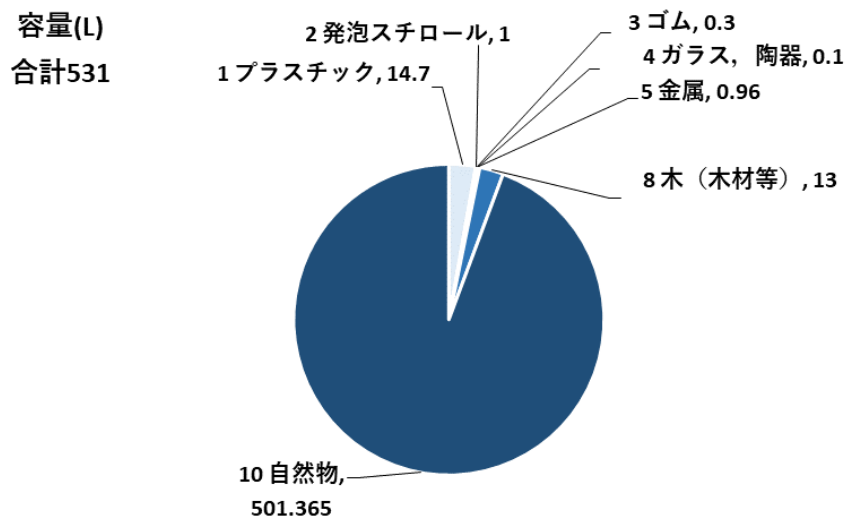
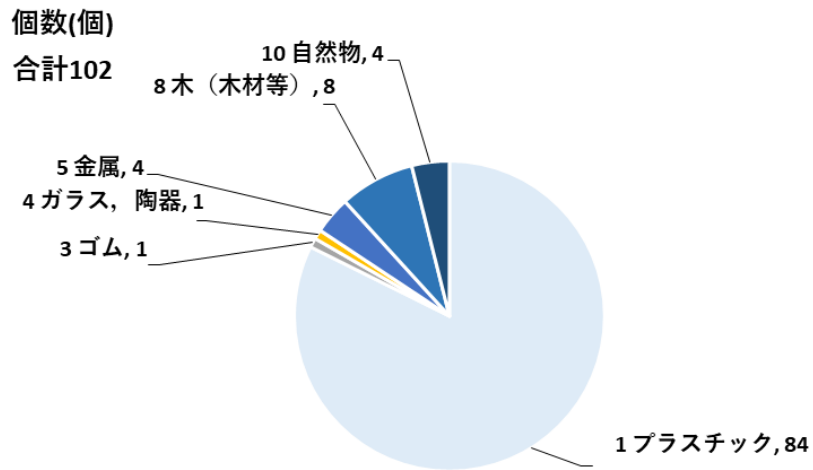


図3 集計結果

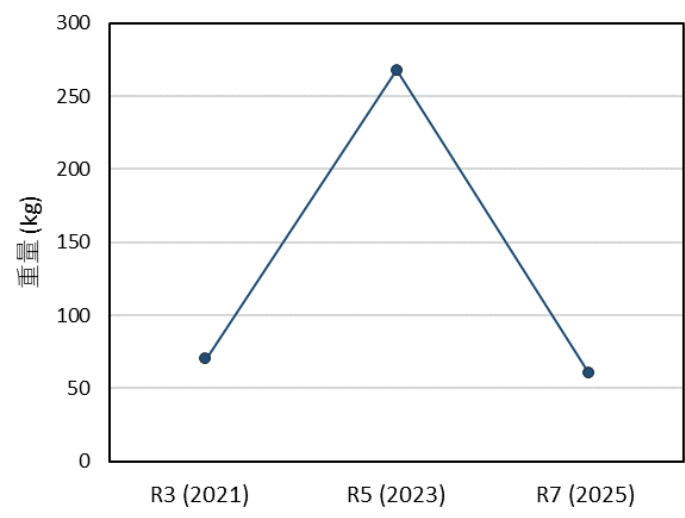
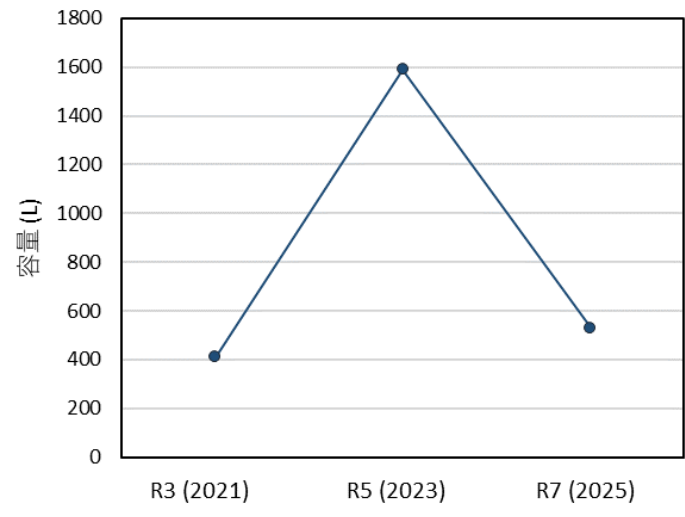
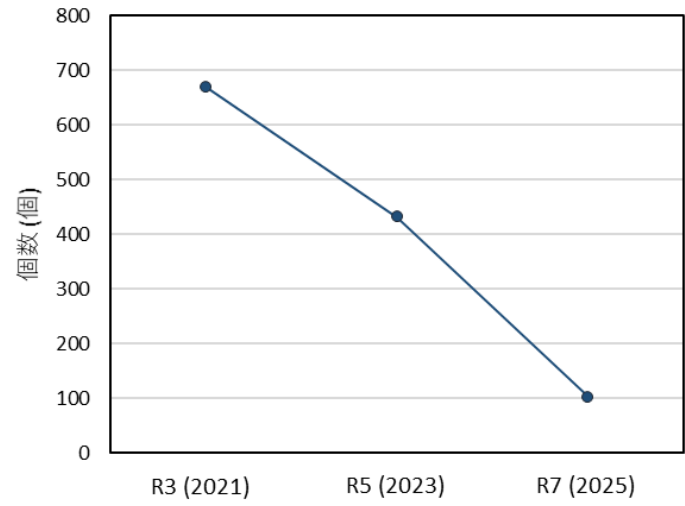
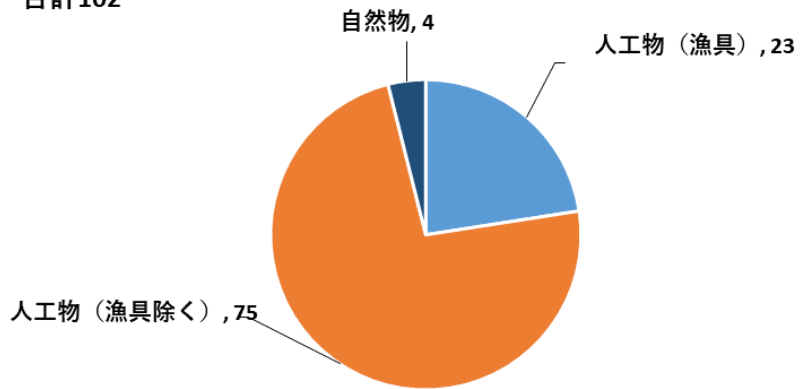


図4 集計結果比較（令和3年、5年、7年）

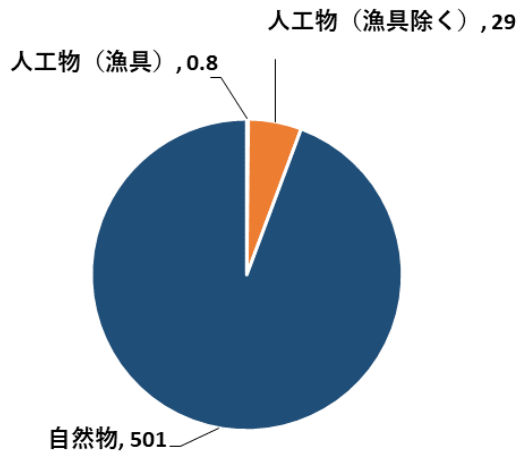
表4 人工物(漁具)、人工物(漁具除く)及び自然物に分けた集計結果

分類	個数 (個)			容量 (L)			重量 (kg)		
	R3 (2021)	R5 (2023)	R7 (2025)	R3 (2021)	R5 (2023)	R7 (2025)	R3 (2021)	R5 (2023)	R7 (2025)
人工物(漁具)	404	50	23	124	568	1	43.6	19	0.4
人工物(漁具除く)	266	359	75	19	473	29	2.5	132	9.7
自然物	0	22	4	268	548	501	23.8	117	50.6
合計	670	431	102	411	1590	531	70.0	268	60.7

個数(個)
合計102



容量(L)
合計531



重量(kg)
合計60.7

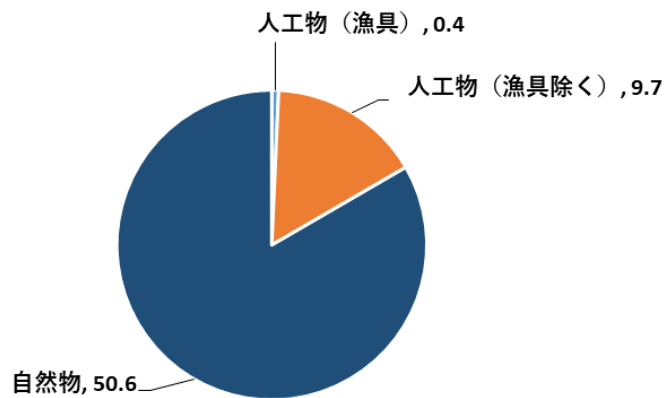


図 5 人工物(漁具)、人工物(漁具除く)及び自然物に分けた集計結果

表5 ペットボトル等の製造国別集計結果

大分類	ペットボトル (個)			ペットボトルのキャップ (個)			漁業用の浮子 (個)		
	R3 (2021)	R5 (2023)	R7 (2025)	R3 (2021)	R5 (2023)	R7 (2025)	R3 (2021)	R5 (2023)	R7 (2025)
日本	3	9	11	17	3	2	0	0	0
中国・台湾	0	9	0	2	2	0	0	0	2
韓国	2	4	0	1	2	0	0	0	0
その他	1(ベトナム)	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	3	2	39	26	4	0	1	1
合計	6	25	13	59	33	6	0	1	3

4 まとめ

福岡県の海岸漂着ごみの実態把握及び発生抑制対策に資する情報収集を行うため、海岸漂着ごみ組成調査を新松原海岸（岡垣町）で実施した。その結果、531 L、60.7 kg の海岸漂着ごみを確認した。容量及び重量ともに最も大きな割合を占めたのは自然物であった。

添付1 風配図（宗像、八幡観測所）

添付2 漂着ごみデータシート

添付3 言語表記等調査のデータシート

添付4 回収前後の海岸の写真

添付5 回収物の写真